

きんこうてい

日出町有形文化財

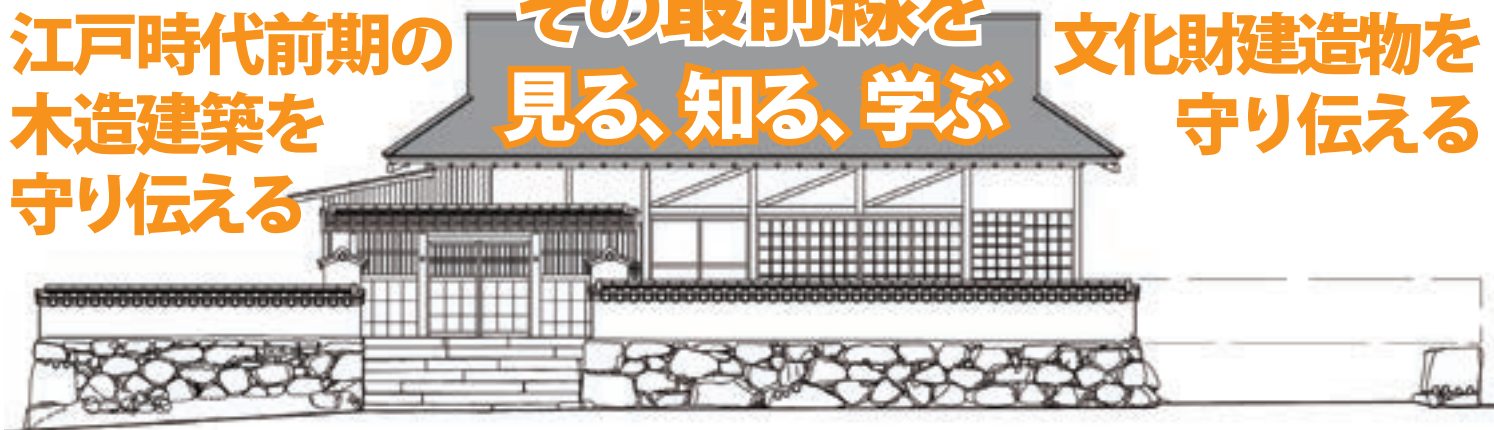
日出藩御茶屋

襟江亭主屋 解体保存工事見学会

江戸時代前期の
木造建築を
守り伝える

その最前線を
見る、知る、学ぶ

文化財建造物を
守り伝える



日時

令和7年 12月13日(土)

10:30 ~ 12:00



少雨決行
荒天中止

会場

襟江亭 ★申込不要、見学無料

大分県速見郡日出町大字大神字深江 5422 番地

P 大神漁港駐車場をご利用ください（駐車場より会場まで徒歩約2分）

内容

Ⅰ 襟江亭の歴史、調査、評価について（概要）

Ⅱ 襟江亭主屋の工事（解体保存）について（概要）

Ⅲ 工事現場の公開見学

★建築・文化財のスタッフが見どころを解説します

👉 襟江亭（文化財建造物）の建築構造・部材の特徴、発見、謎

👉 襟江亭（文化財建造物）の解体ならではの方法や技術

日出藩御茶屋襟江亭

襟江亭は寛文7年(1667)年、日出藩3代藩主木下俊長の命により深江（港）に造営された日出藩の御茶屋です。日出藩をはじめ、別府湾を出帆する九州諸藩の大名が深江港、襟江亭を利用しました。現存する極めて希少な大名参勤交代の御茶屋、九州最古期の武家建築として、後世への保存継承が求められる貴重な文化財です（主屋建物は町指定有形文化財）。



主催

日出町教育委員会

問合せ

日出町教育委員会社会教育課（文化財係）

TEL0977-73-3222/FAX0977-72-8680

〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2

次 第

- 1 開 会 (10:30 ～)
- 2 説 明
 - (1) 襟江亭の歴史・調査・評価（概要）について
 - (2) 襟江亭主屋解体保存工事（概要）について
- 3 現場公開 (10:50 ～)
 - (1) 解体現場見学
 - (2) 解体部材展示見学
- 4 閉 会 (～ 12:00) ※現場公開以降、自由解散

事業の概要

事業名 日出町有形文化財「日出藩御茶屋襟江亭主屋」解体保存工事
対象文化財 日出町有形文化財 日出藩御茶屋襟江亭主屋（令和6年12月20日指定）
所有者 日出町
事業組織 [事業主体] 日出町教育委員会（社会教育課）
協力 日出町（都市建設課）
[設計・監理] Y.O設計
[施 工] 有限会社吉弘建設
事業期間 令和7年9月～令和8年3月
事業概要 襟江亭主屋の調査・解体
[工 事] 主屋建物（礎石を除く）の解体（部材は格納保存）
[調 査] 解体に伴う建築構造・意匠・部材その他の調査記録

事業の経過（概要）

平成28年度 日出藩御茶屋襟江亭保存調査委員会 設立・調査（～令和3年度）
委員長 伊東龍一（熊本大学教授）/ 建築 注）名簿は平成29年3月時点
委員 加藤悠希（九州大学準教授）/ 建築
" 中尾七重（山形大学研究員）/ 建築・科学分析
" 久保智康（京都国立博物館名誉館員）/ 金工
" 高瀬哲郎（石垣技術研究機構代表）/ 石垣
" 林 千寿（八代市立博物館）/ 史料
" 三ヶ尻勝（日出町文化財保護委員）/ 建築
事務局 日出町教育委員会文化振興室（現社会教育課文化財係）
令和3年度 日出町文化財報告書第8集「日出藩御茶屋襟江亭調査報告書」刊行
令和6年度 襟江亭主屋文化財指定（町有形文化財）・寄付（日出町所有）
襟江亭主屋解体保存設計業務委託（受注：Y.O設計）
令和7年度 襟江亭主屋解体保存工事

I 日出藩木下家

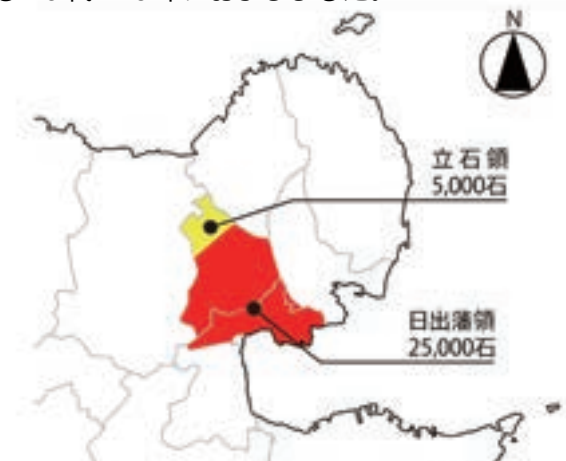
I-1 木下家と日出藩

ひじ
のぶとし
日出藩木下家は江戸時代、豊臣一族である木下延俊（1577～1642）を藩祖に豊後国速見郡日出3万石（後に2万5千石）を統治した大名です。

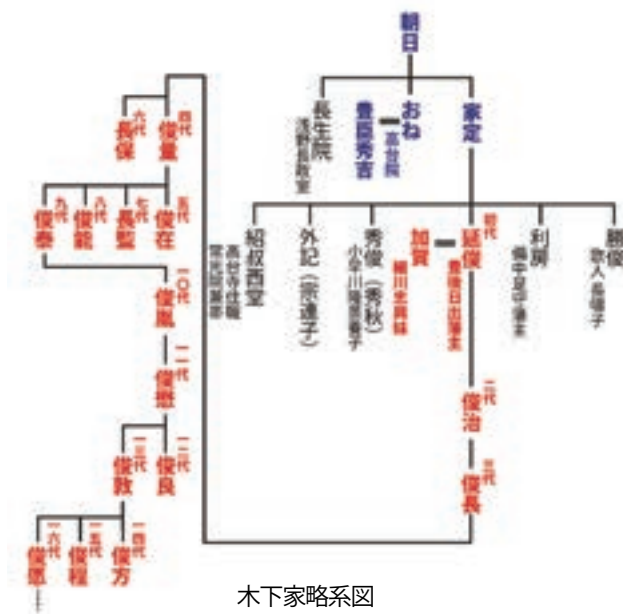
藩祖延俊は木下家定の三男に生まれ、豊臣秀吉正室の寧（高台院）の甥にあたります。平姓杉原氏を改め「豊臣姓木下氏」を名乗り、父家定とともに秀吉に仕えました。

関ヶ原の合戦後の慶長6（1601）年、延俊は日出3万石の藩主として入封し、その後まもなく日出城を築城しました。

延俊の逝去後、2代藩主俊治の弟延由に5千石が分封され（立石領）、その所領は2万5千石となりました。木下家による統治は、江戸時代を通じて16代270年におよびました。



日出藩領



木下家略系図

I-2 木下俊長

3代日出藩主木下俊長（1648～1716）は、2代藩主俊治の第三子に生まれ、寛文元（1661）年に家督を継ぎました。

俊長は、幕府の武断主義から文治主義への転換を背景に、文武の奨励や寺社への奉納寄進、灌漑の整備（ため池築造）、殖産の振興（七島蘭栽培）など、藩の内治に意を尽くしました。また、人見竹洞（幕府儒官）や狩野常信（幕府御用絵師）に師事・親交したことで知られています。

俊長は享保元年9月8日に逝去し、その遺命により横津（現横津神社）に儒葬され、生前はもとより近代を迎えた後も名君と称えられました。



木下俊長肖像



横津御廟（現横津神社）



横津御廟（日出藩主3代木下俊長墓）

II 日出藩御茶屋 襟江亭

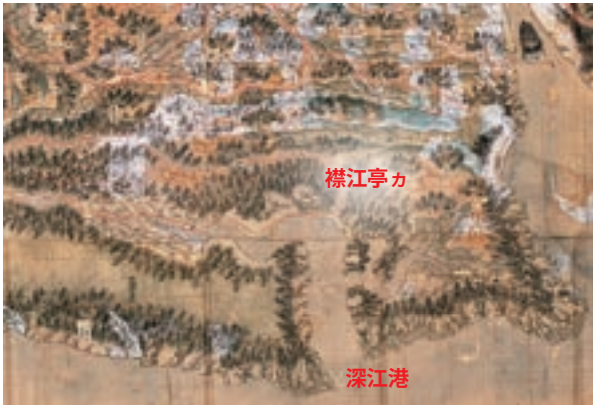
II-1 御茶屋

「御茶屋」とは、戦国時代末から江戸時代にかけて、将軍や大名、また、賓客などが宿泊・休憩に利用した施設です。主に街道筋や交通の要衝、寺社などに設けられました。

日出藩領内にも、江戸時代を通じていくつかの御茶屋が営まれましたが、唯一、深江（大字大神字港）の「襟江亭」が今日に現存しています。

II-2 深江港

深江港は、室町時代初期の頃に大神朝直が初めて大神に住み深江城（別名一戸城）を築くことにより栄えたとされています。幅約 200m の湾口に 800m を超える奥行きを持つ湾であり、古くから豊後一の良港といわれました。江戸時代には東西の運輸交通の要衝とされ、日々、大小 300 隻内外の船が入港していたとされています。昭和 20 年には、旧日本海軍が人間魚雷「回天」の訓練基地を設けました。



『日出藩領内絵図』にみる深江港・襟江亭



深江港と襟江亭の眺望

II-3 襟江亭

日出藩木下家の家臣二宮兼善が寛政年間に編纂した地誌『南大神村図跡考』によると、襟江亭は寛文 7（1667）年、3 代日出藩主木下俊長の命により深江港（現大神漁港）の北岸に造営されました。当時、深江には初代藩主木下延俊が御茶屋を営んでいた模様で（その所在地は「新地の北山の下」、襟江亭の所在地より南東数百メートル付近と推定）、これを現在地に「地引-移築か-」して襟江亭が整備されたと伝えられています。

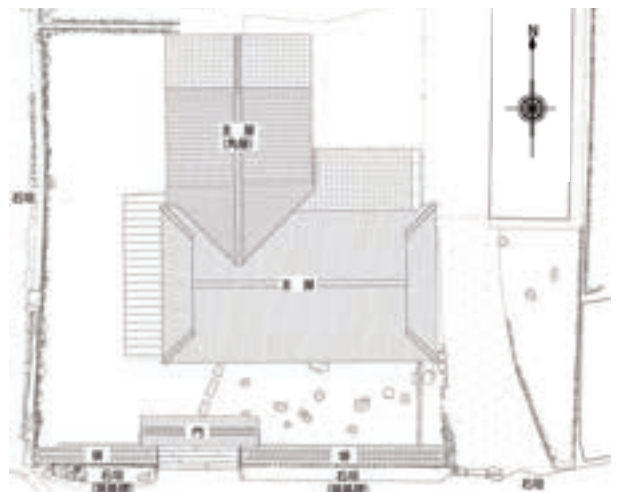
深江は先述のように風待ちに優れた港を持ち、日出城築城の候補地にも挙げられていました。日出藩にとって重要な深江港に営まれた襟江亭は、日出藩主をはじめ他藩の参勤交代の風待ちや日出藩主の狩猟などの休憩施設として利用されました。



襟江亭全景



襟江亭南面（正面）



襟江亭の構成



襟江亭主屋外観 (平成前年)



襟江亭主屋外観 (現在)



襟江亭主屋室内 (ヒロマ・ザシキ・オナンド)

深江港·襟江亭年表

時代			事 項	出 典
区分	西暦	和暦		
中世	—	—	11世紀頃鎌倉時代末期～南北朝時代、大井氏により深江に城が築かれたという 深江城に大井氏から派遣された武士が初めて管理していたという	『大友大井氏系図書上巻』『豊後国在野公領史料集成』(17) 『大井氏伝承覚書』『大分県史料』11
	近世	1600	慶長5	2月、細川忠興が遠見郡6万石を拝領する
8月、豊田家の命により、太田一吉(豊後白舟城主)が細川頼通見郡6万石受取のため本村へ参陣する。その際、太田家が本付城攻めの拠点とするため、深江の古城を占領しようとしているとの情報を得る。細川家はこれを見止めるため、深江城の本丸・二丸に至るまで金入りに厳禁する				『松井文庫所蔵古文書調査報告書』3巻45号史料
1601		慶長6	8月、本下屋敷が遠見郡日出に人数31出番3万石。その際、城地の領地として日出と深江が単がり、日出が選ばれる この年より日出城の築城が始まる。築城は細川忠興、右筆書置は細川家室の次子頼右衛門が行う	『平松利邦氏御系図附言』
			1613	慶長18
—		—	深江の「新地の北山の下」に、御系屋が御系所とともに存在していた	『南大井氏系図考』『御系屋の項』
1667		寛文7	3代本下屋敷、現在地に御系屋を遷移する	『南大井氏系図考』『御系屋の項』
—		—	人見竹洞、深江平の八景詩を詠む	『南大井氏系図考』『御系屋の項』
1663		天和3	侯長、参勤交代に際し、深江で風疹も	『大井氏伝承覚書』『大分県史料』11
1722		享保7	深江浦南ら、庄屋高兵衛に漁業に関する税額書を提出する	『参勤交代紀行中央上巻』(個人蔵)
1730		寛延3	深江に新たな街道を配するため、山側を切り崩して平道を掘り立てる	『南大井氏系図考』『新地の項』
1780		天明10	新地に1軒の民家が移住する	『南大井氏系図考』『新地の項』
1773		安永2	2月7日、18代本下屋敷は細川重賢(熊本藩第6代藩主)「本下新御深江平」に招く	『重賢公日記』『重賢公御断日記』
1788		天明8	18代屋敷、狩などの際に深江平を18回利用する(2/2、8/23、10/16、11/6・22、12/6・18)	『本下屋敷日記』
1789		天明9	18代屋敷、狩などの際に深江平を28回利用する(3/22、3/13) 18代屋敷、参勤の馬持ちのため深江平に5泊する(3/4～6)	『本下屋敷日記』
1790		寛政2	18代屋敷、狩などの際に深江平を17回利用する(8/18、9/18・26、11/1・4・9・11・15・16・23・26、12/1・4・9・11・16)	『本下屋敷日記』
1791		寛政3	18代屋敷、狩などの際に深江平を16回利用する(3/6・18・21・26、2/1・4・6・11・21)	『本下屋敷日記』
1792		寛政4	18代屋敷、狩などの際に深江平を30回利用する(8/3・23、10/1・4・6・13・18・21・23・26、11/1・4・9・11・16・18・21・23・26、12/2・5・9・11・16・18・19・21・23・26)	『本下屋敷日記』
1793		寛政5	18代屋敷、狩などの際に深江平を20回利用する(3/6・15・21・26、3/0) 18代屋敷、参勤の馬持ちのため深江平に11泊する(3/5～13)	『本下屋敷日記』
			3月3日、中川久持(福岡藩第2代藩主)、深江渡にて風疹も 3月7日、久留島通同(森藩第2代藩主)、系図深江平に招かれる	
1795		寛政7	18代屋敷、狩などの際に深江平を18回利用する(3/19・21、11/16) 18代屋敷、病氣のため参勤が遅れ、11月の出発となったため深江に寄らずに出航	『本下屋敷日記』
			18代屋敷、狩などの際に深江平を18回利用する(2/10、9/4・18、10/11・18・20・25、11/1・6・18・19・22・26、12/5・9・18・21・26)	
1796		寛政8	8月7日、府内藩、参勤交代のため迎船を深江に待機させ、井屋藩に御在所交代のため府内使の乗船日を伝達 18代屋敷、狩などの際に深江平を6回利用する(3/21、3/9・11・13・18・19)	『井屋藩町史改訂版』
			18代屋敷、参勤の馬持ちのため深江平に4泊する(3/6～9) 3月9日、久留島通同(森藩第2代藩主)、系図深江平に招かれる 二宮東彦(郡奉行)、『南大井氏系図考』に深江平のことを記す	『南大井氏系図考』
1799		寛政11	18代屋敷、狩などの際に深江平を6回利用する(3/9・21・26、2/2・11・18) 18代屋敷、参勤の馬持ちのため深江平に3泊する(3/7～10)	『本下屋敷日記』
	1800		寛政12	
1801	享和元	18代屋敷、参勤の馬持ちのため深江平に3泊する(3/6～9)	『本下屋敷日記』	
—	—	侯長鳳主、参勤途中の復讐の命により人見竹洞の八景詩にならび、深江平の八景詩を詠む	『西嶋先生動機』	
1810	文化7	2月9日、伊能忠敬一行が深江の御系屋にて中食をとる	『伊能忠敬測量日記』	
1829	天保10	府内藩、参勤の馬持ちのため深江渡に11日間待機する(10/30～11/1日)	『御参勤日記』(府内藩記録)	
1844頃	弘化5頃	13代本下屋敷、深江にて建屋	『増補利基鳳主全集』4巻	
1863	文久3	6月9日、長門郡に対する侵入を定める。その中で深江周辺に住む世々の村人は御系屋に集まり、防備の任を果たす	『文久二年 長門郡御手配覚書之写』(日出町誌)史料館03～07ページ	
1868	明治元	4月、13代屋敷は東京より戻り深江の「御系屋」に住む	『本下家系図附言書』本下大和守屋敷の項	
現代	1870	明治3	4月24日、使表は明治政府からの御書により深江から上京し、明治天皇に拝謁する	『本下家系図附言書』本下大和守屋敷の項
	1871	明治4	鹿野直道により、使表は深江から東京に移住する	『本下家系図附言書』本下大和守屋敷の項
	—	—	鹿野直道の際、小石川町内田吉神比呂司が本下家から深江平を譲り受けた	『平成9年度日出町深江平調査報告書』

III-5 石垣

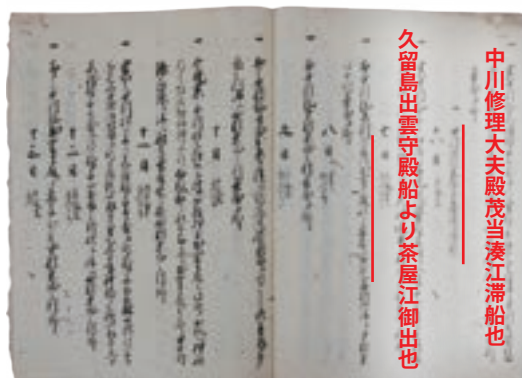
襟江亭の南三方を廻る石垣の内、南面（正面）石垣は大ぶりの^{のづらいし}野面石・^{そわりいし}粗割石を横置きに布積みし、一部に鏡積み（石垣表面を巨石で飾る技法）が駆使されています。^{ですみ}出角部は控えの短い大ぶりの粗割石を^{さんぎ}算木積みし、^{すみわきいし}角脇石はありません。石材にみる^{やあな}矢穴痕（クサビを打ち込む穴の跡）は大ぶりで、襟江亭造営以前の江戸時代初期の構築とみられ、その当時深江港には日出藩の重要な施設が営まれていたことがうかがえます。



襟江亭南面（正面）の石垣

III-6 史料

参勤交代において深江港には日出藩に限らず、姻戚・親交関係にあった熊本藩細川氏をはじめ、森藩久留島氏、府内藩松平氏、岡藩中川氏など他藩の船団が寄港し、時に襟江亭を利用しました。襟江亭には、深江に^{とまりゆう}逗留する大名をもてなす迎賓館としての機能があったのです。このほか、地図測量に赴いた伊能忠敬一行の襟江亭での休息、人見竹洞（幕府儒官）が詠んだ襟江亭より臨む深江の八景詩（漢詩）も注目されます。



日出藩 11 代藩主木下俊懋日記（寛政 5 年）

III-7 類例

襟江亭に通じる御茶屋の建築遺構として、九州には南関御茶屋（熊本県 /1850 年築）、^{なんかん}時津御茶屋（長崎県 /1847 年築）などが挙げられ、近年には熊本地震により失われた御茶屋もあります。

こうした御茶屋の類例遺構が造営された年代は幕末であるのに対し、襟江亭は唯一 17 世紀にさかのぼります。また、風待ちの御茶屋の機能を考慮すれば、同様の御茶屋遺構を現在他建築に見出すことはできません。



南関御茶屋（国史跡 / 熊本県）

襟江亭の文化財保護評価

襟江亭は、建設年代が寛文 7 年（およそ 350 年前）という江戸時代でも早い時期にさかのぼる、武家文化が生み出した九州では数少ない建築遺構です。その意匠には当時の宮廷を含む上層階級に共有される美意識が反映されており、機能的には風待ちの御茶屋という今となっては全国的にも極めて稀な価値を持つ建築です。



深江港と襟江亭の遠望



襟江亭より深江の港を望む

Ⅳ 襟江亭の評価－襟江亭の原姿を考える－

はじめに

第13代俊敦 明治元(1868)年4月～4(1871)年 襟江亭に住む

慶応3(1867)年10月 大政奉還 → 参勤交代制廃止

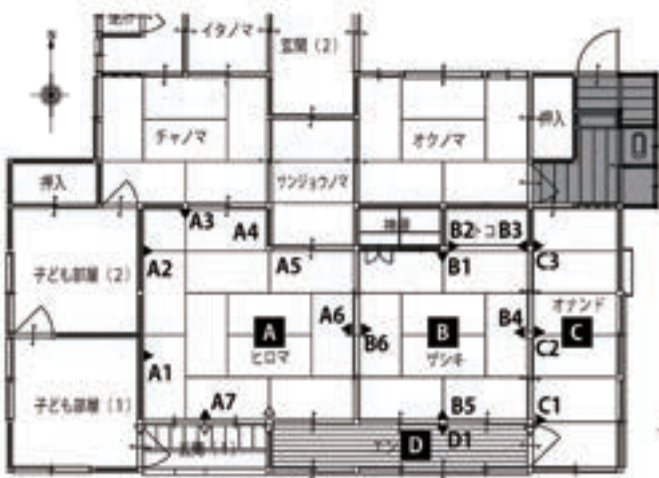
明治4(1871)年 7月 廃藩置県 → 知藩事を廃し東京在住に伴い

⇒参勤交代廃止で不要になった襟江亭を住居として改修

1 襟江亭の玄関及び門について

玄関及び門は後の修築による … 目釘穴及び建築部材から

⇒もとの門・玄関はどこにあったのか → ジオラマ



釘隠の位置 (▼: 釘隠 ▽: 釘隠痕跡)



襟江亭のジオラマ

2 初代延俊が造った御茶屋について

初代延俊が造った御茶屋を地引して襟江亭を整備？

…炭素同位体法による測定→内法長押…1667(寛文7)年より古い！ 瓦なども

→延俊が建てた御茶屋の「新地」とは？



字図にみる『南大神村図跡考』の地名

3 襟江亭の「賄い」について

「賄い」はどうなっていたのか？

→ 地元での聞き取り…裏から長廊下で「伏見屋」とつながっていた



表 1 深江の屋号等一覧

番号	屋号等	氏名	職業	備考	番号	屋号等	氏名	職業	備考	番号	屋号等	氏名	職業	備考
1	大崎丸	北野	漁業		18	岩井屋	佐々木	置屋		35	浜田屋	北野	製菓家	
2	松橋堀	堀	造船		19	日勝	堀			36	浜田屋倉庫	北野	遊郭	
3	お大師鼻	植野	漁業		20	お茶屋浜	北野	漁業・農業		37	堀野屋	上野	蕎麦屋	
4	立石屋	上野	漁業		21	山口屋	北野	イワシ		38	角屋	岩尾		
5	京泊	佐藤	宿屋・漁業		22	新川	上野	芝居小屋		39	若松屋	北野	製菓家	
6	札場	三浦			23	柳屋	清家	仲買		40	網屋	広津	粥元	
7	長土堀	松本			24	新屋	広津	農業		41	岩崎屋	上野	農業	
8	新屋				25	米屋	広津	米問屋		42	高田屋	北野	漁業	
9	豆腐屋	安藤	豆腐屋		26	米屋分家	広津	漁業		43	高見屋	北野	農業	上深江
10	菓子屋	上野	菓子製造		27	北野屋本家	佐藤	郵便局		44	北野屋東	佐藤	農業	
11	左官	上野	左官	近年か	28	北野屋	佐藤	酒屋		45	川崎屋	上野	農業	
12	伏見屋分家	鈴木			29	新店（アヘヤ）	阿部	商店		46	柳屋	堀	醤油	
13	茶屋	堀野	深江漁		30	麻屋	宮崎	雑貨		47	藤屋	上野	漁業	
14	井徳屋	藤本	漁業		31	五辻	北野	農業	上深江	48	お庄屋	堀		
15	港屋	河野	漁業・農業		32	平上	北野	ミカン農家		49	柳江丸	堀	漁業	
16	伏見屋	鈴木	粥元・製塩		33	平下	北野	農業		50	城			地名
17	不明	堀			34	川崎屋	北野	農業						

V 襟江亭主屋解体保存工事（概要）

【経 過】

- 1 当初建設・・・寛文7(1667)年 江戸期の改修は不明。
- 2 明治初期の改修
 - イ・・・建具類。神棚。天井板等々
 - ロ・・・小壁の斜材補強。
- 3 昭和10年頃・・・座敷上部の屋根にくぼみが出来る。
小屋組みを補強する。
- 4 昭和30年頃・・・オナンド北の便所を改修する。
- 5 昭和50年頃
 - イ・・・子供部屋を増築。
 - ロ・・・内玄関、ホール、便所に台所を増改築する。
 - ハ・・・茶の間西面に窓を作る。
- 6 平成 8年・・・北野熊大教授の踏査。
- 7 平成16年・・・建築士会別府支部の調査。
主棟の瓦を下し、格納する。
- 8 令和 7年・・・全棟の分解格納。 以上

【分解格納の作業要領】

外部足場・・・くさび足場、6か月間

内部足場・・・棚足場要

部材清掃・・・格納全部材。くぎ抜き。木箱に釘・金物を納める。

格納場所・・・川崎工業団地北棟。保存棚を設置格納

分解作業 手壊し、積込は重機と併用する。

すべての部材にしな合板の木札を取り付ける。油性マーカで表記

釘・金物の取り外しは、木部保護のため保護板を当てる。

現在釘で止めてある部材双方にチョウキング（和釘＝□ 洋釘＝○）

土台の柱位置は、朱墨で痕跡表示

土台下布礎石・床束石にも朱墨で痕跡表示

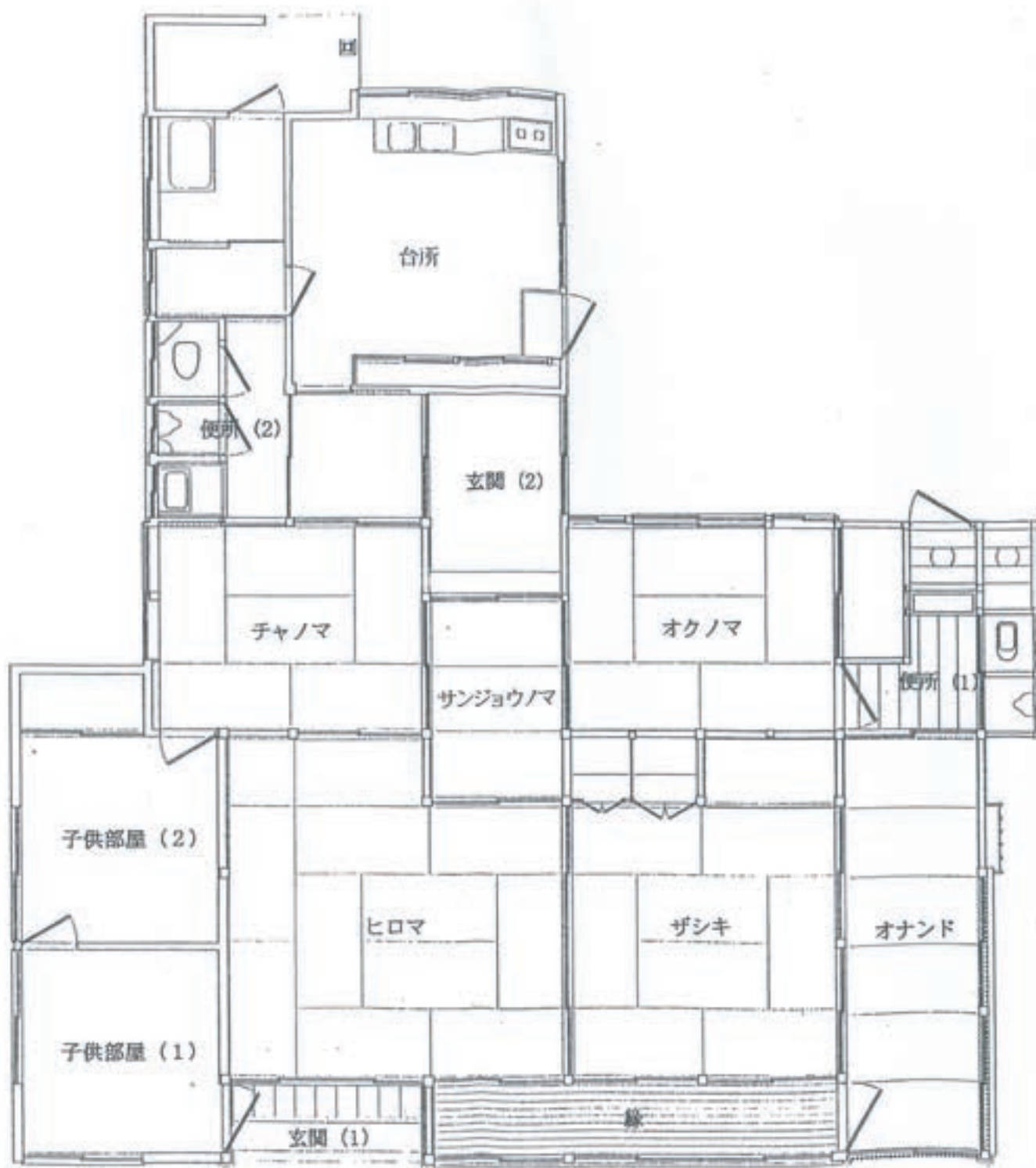
礎石類は現場保存する。

犬走・土間及び布基礎等のコンクリート部分は撤去処分する。

木材調書の作成。木札の止付け位置は南面と東面を基本とする。

格納庫内の保存材目録を作成する。

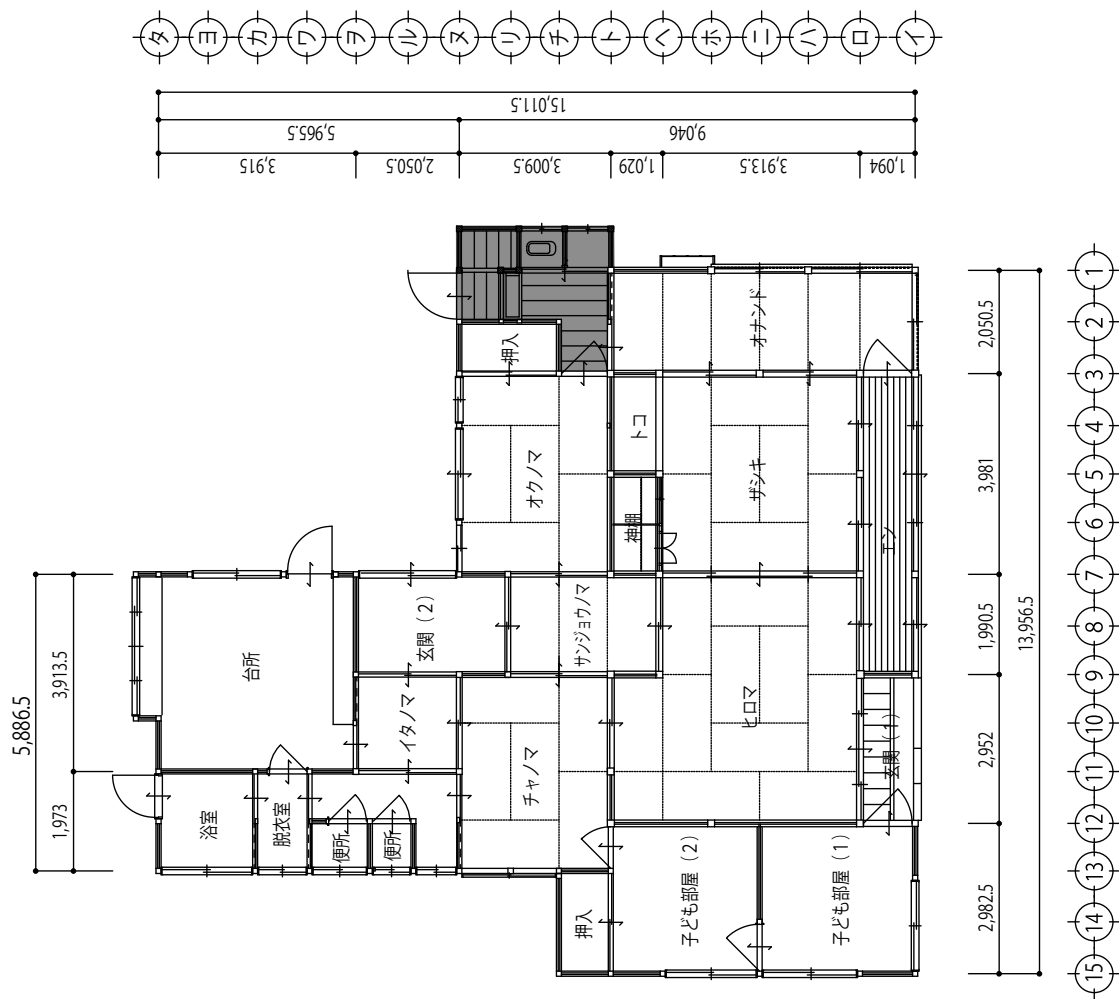
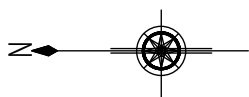
。



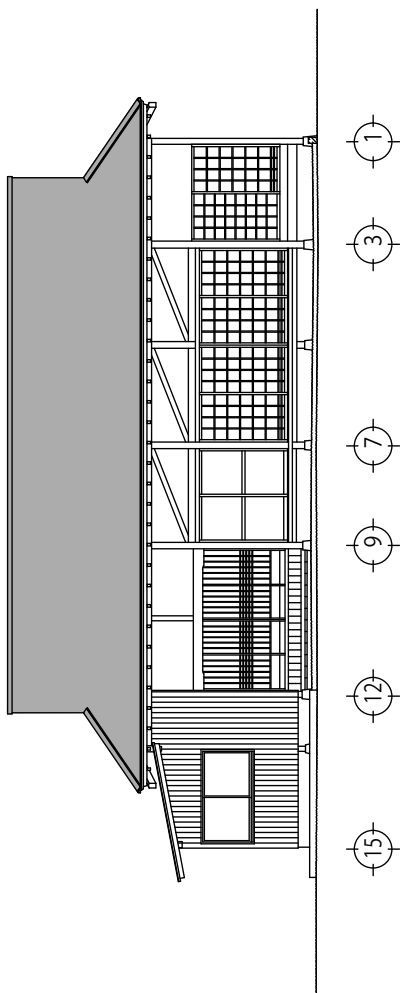
襟江亭平面図 (平成 8 年 熊本工学会)

図面図版

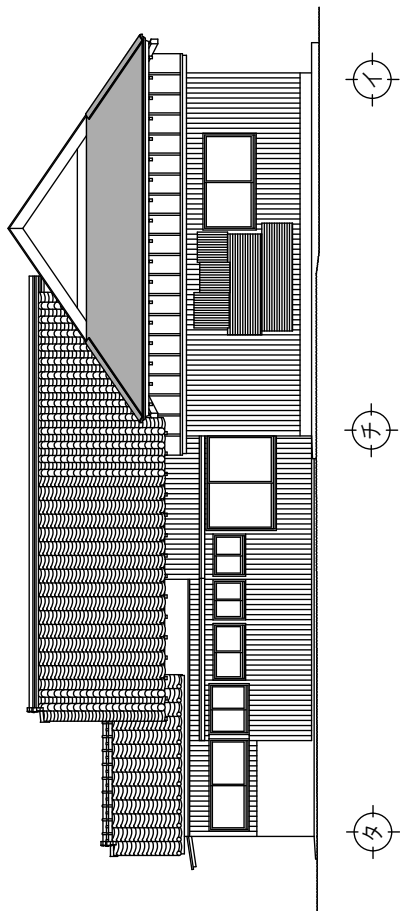
『日出藩御茶屋襟江亭調査報告書』抜粋



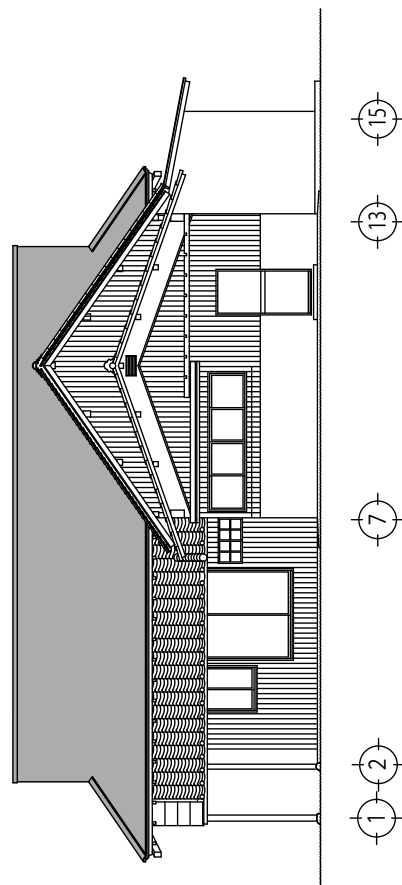
図面図版 1 現況平面図 (S=1/150)



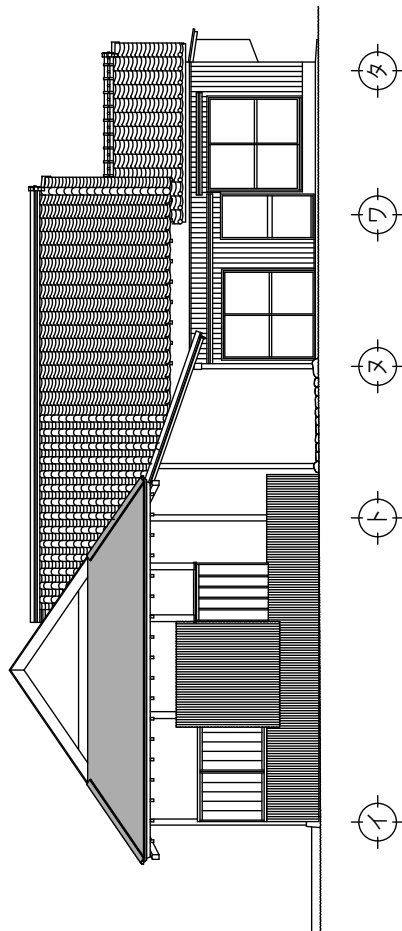
現況南立面図



現況西立面図



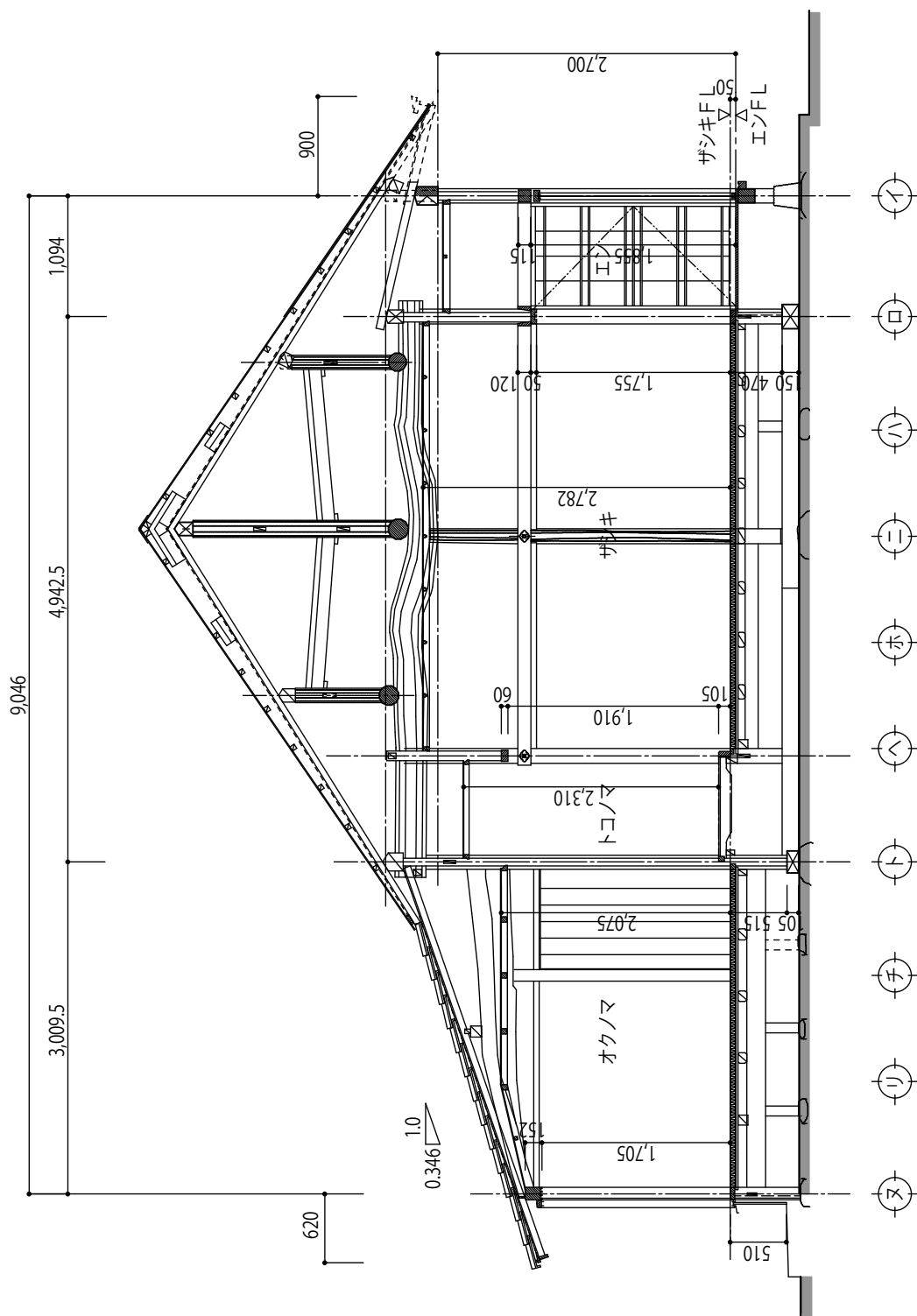
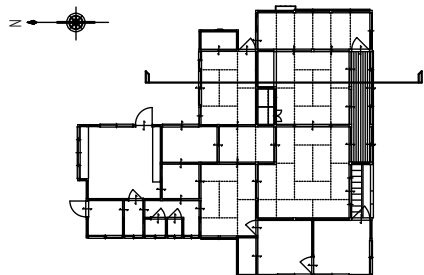
現況北立面図



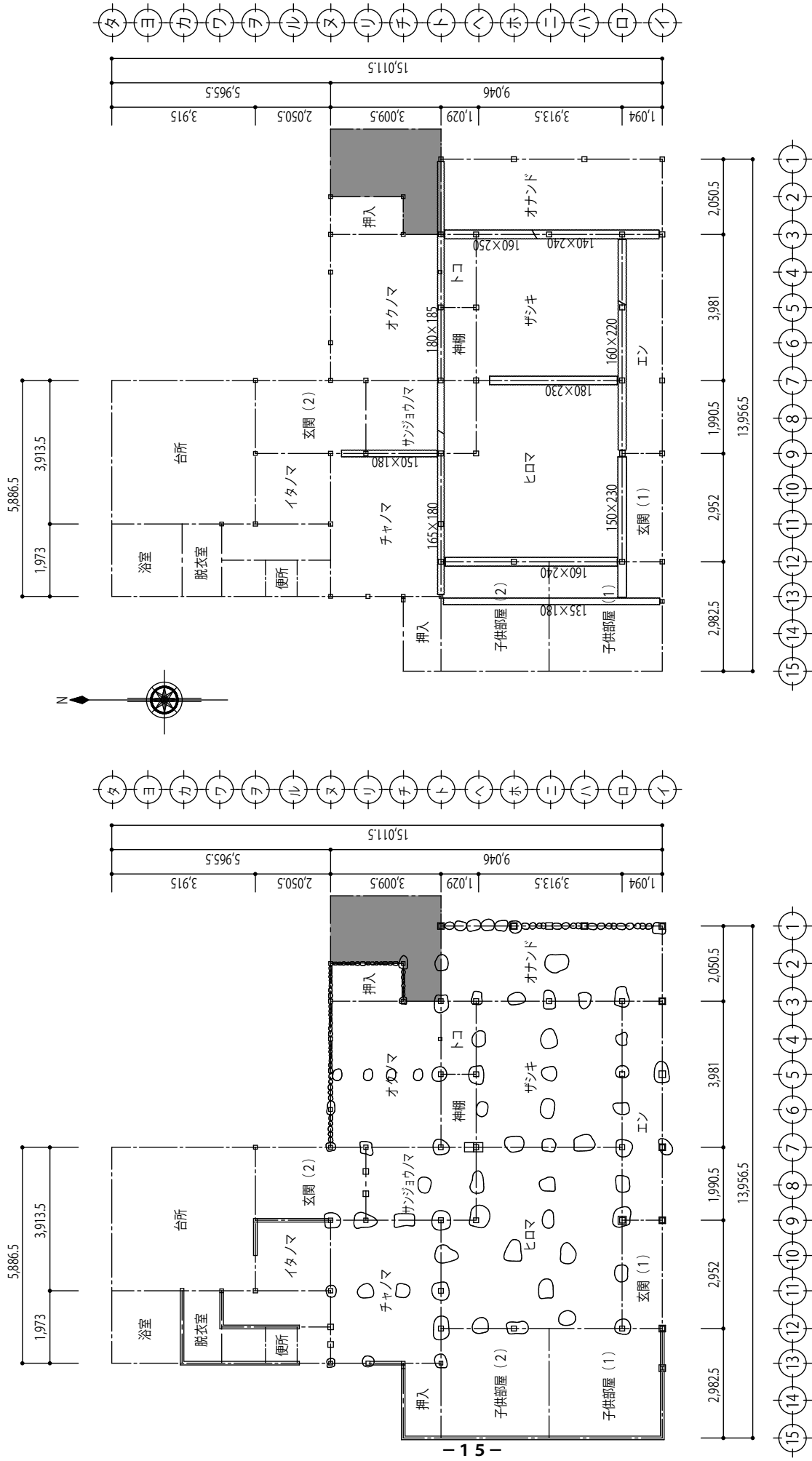
現況東立面図



- 図面図版 2 現況南立面図 (S=1/150)
- 図面図版 3 現況北立面図 (S=1/150)
- 図面図版 4 現況西立面図 (S=1/150)
- 図面図版 5 現況東立面図 (S=1/150)



図面図版 6 現況矩計図「ガシキ」(S=1/60)



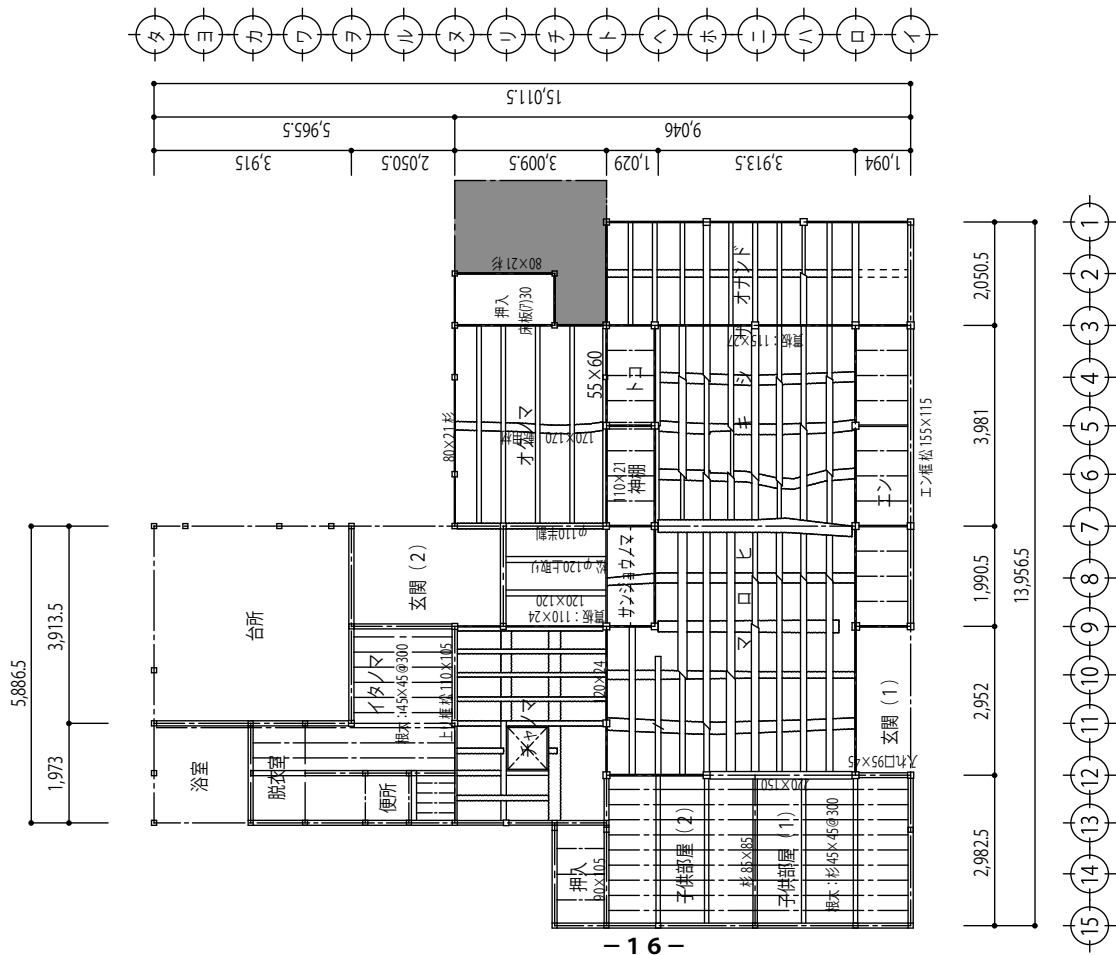
基礎伏図

土台伏図

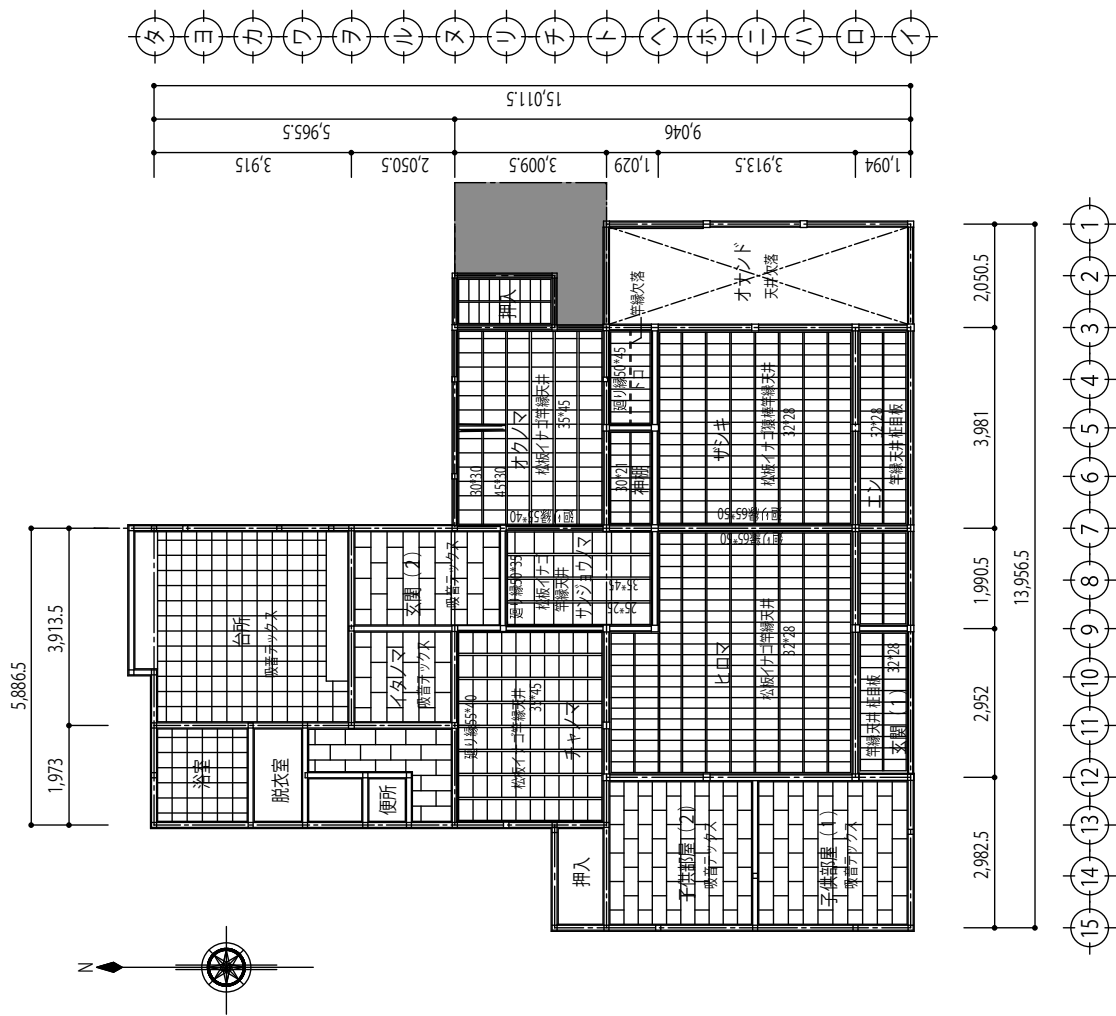
※土台は全て椎材



図面図版 8 現況基礎伏図 (S=1/150)
図面図版 9 現況土台伏図 (S=1/150)

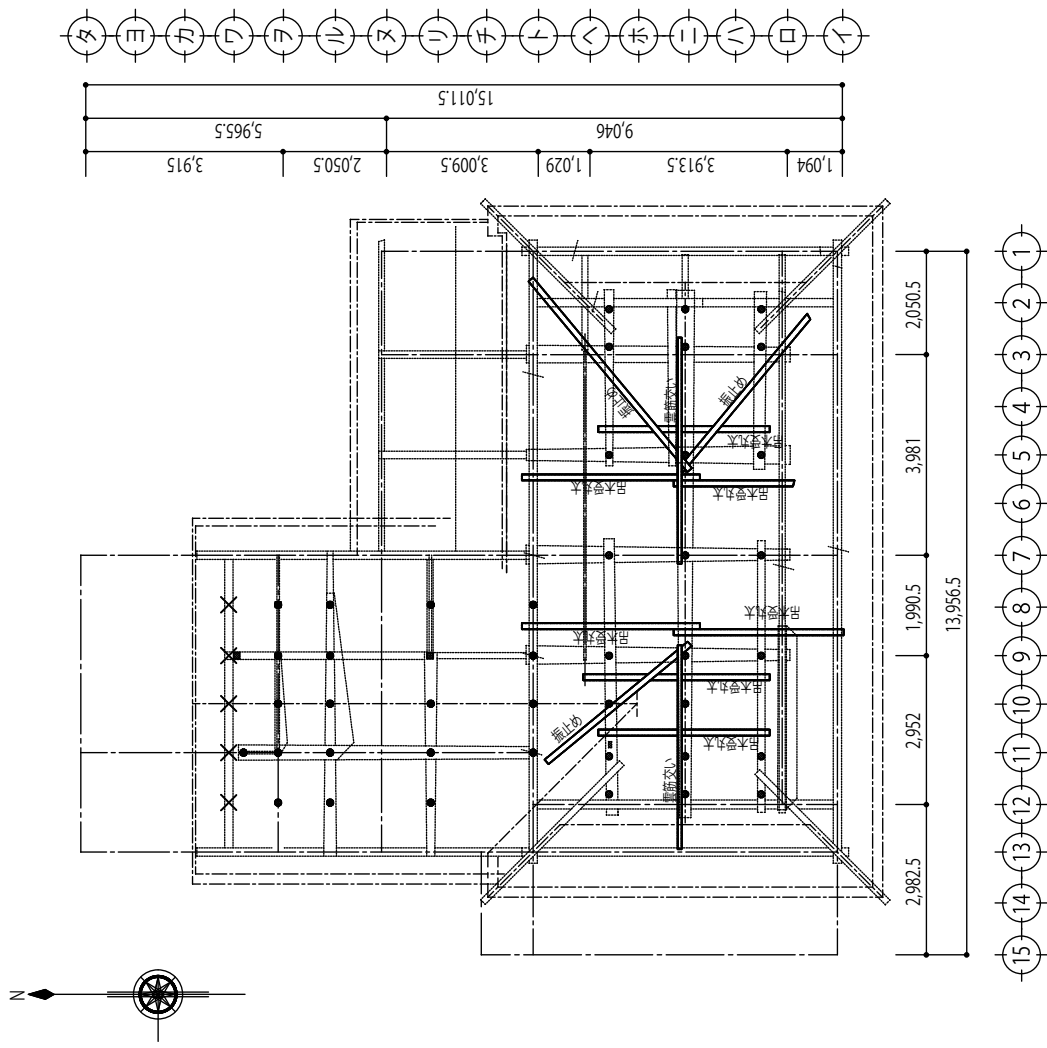
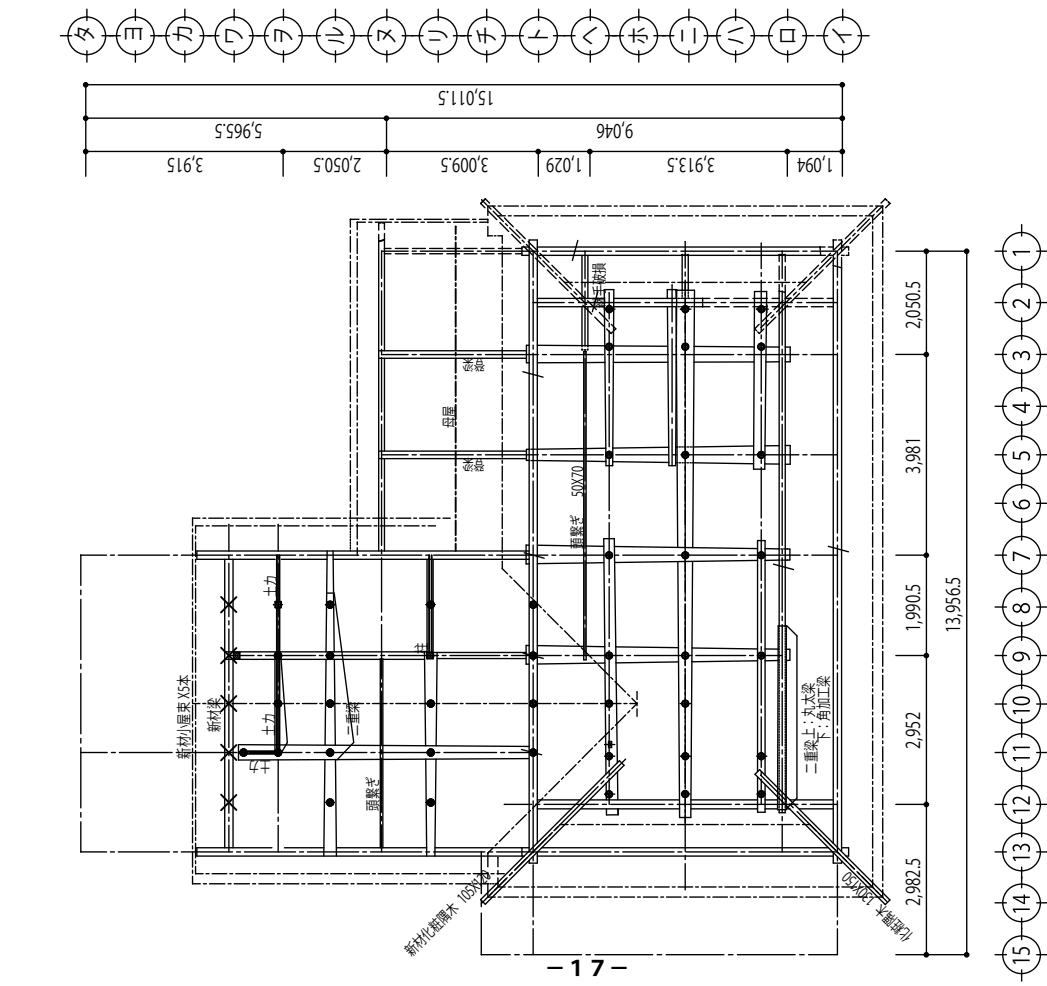


現況床伏図



現況天井伏図

図面図版10 現況床伏図 (S=1/150)
図面図版11 現況天井伏図 (S=1/150)

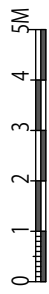


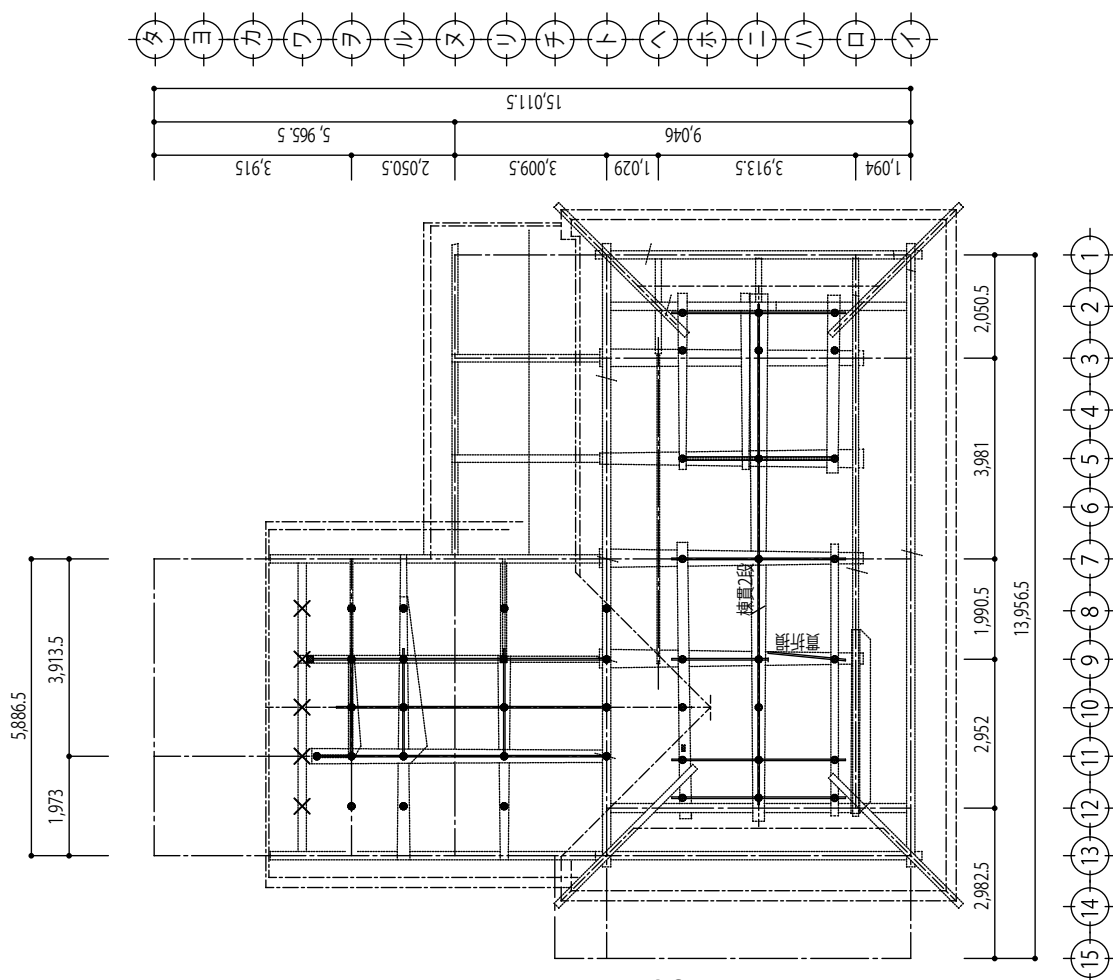
現況小屋梁伏図

現況小屋吊木受・振止伏図

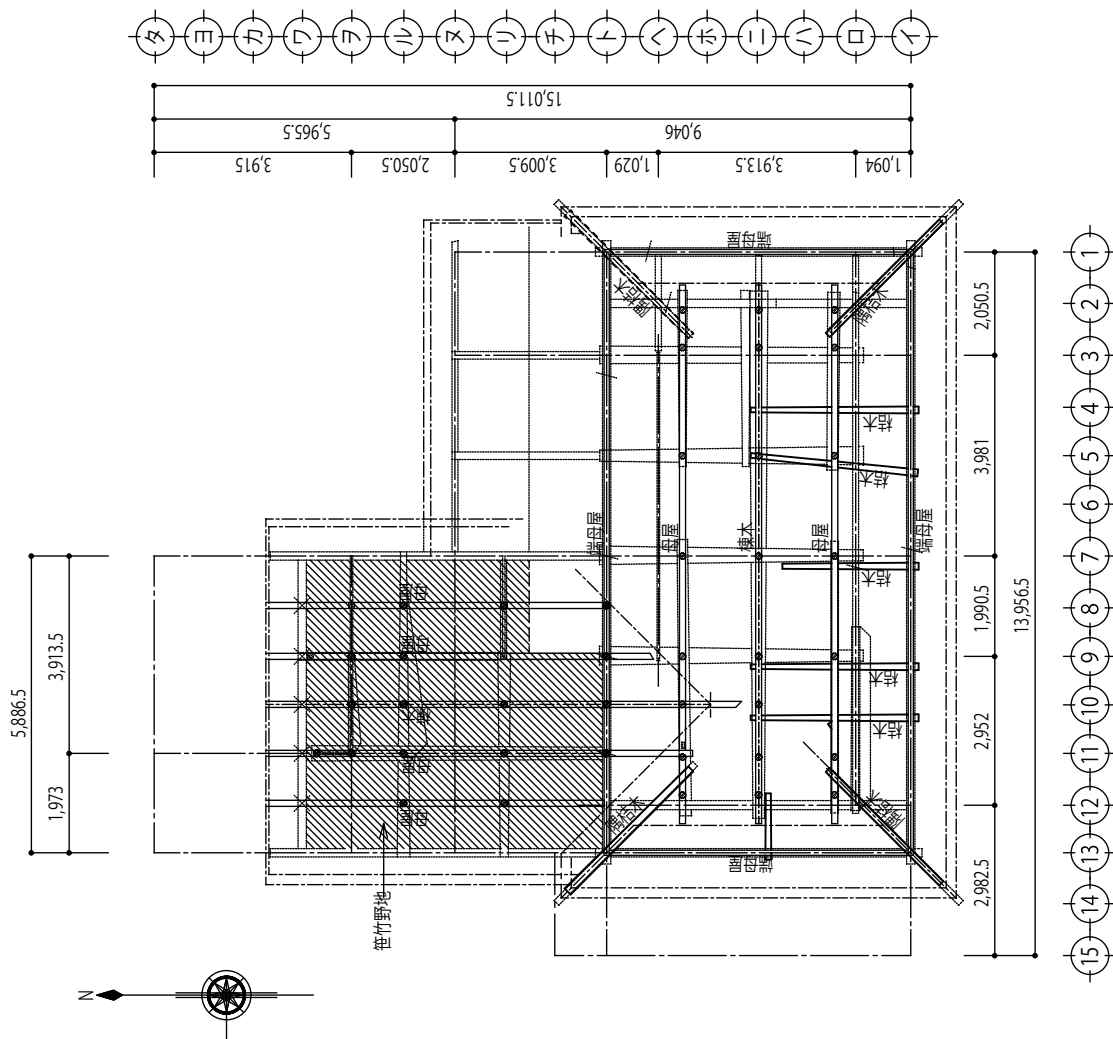
図面図版12 現況小屋梁伏図($S=1/150$)

図面図版13 現況小屋吊木受・振止図($S=1/150$)



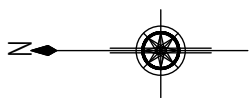


現況小屋束・貴伏図

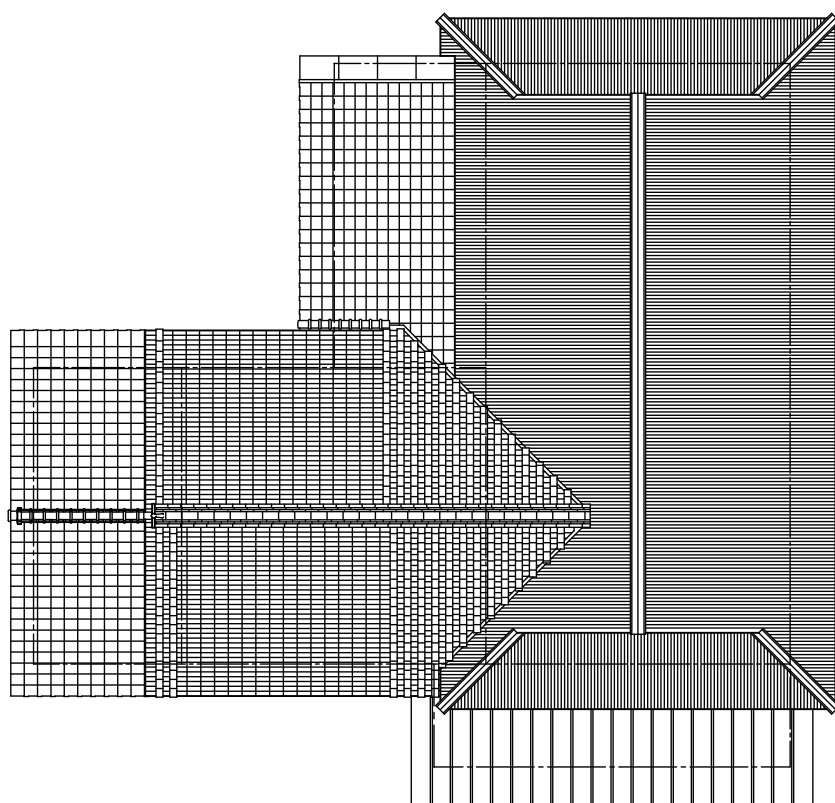


現況小屋母屋・桔木伏図

図面図版14 現況小屋束・貴伏図 (S=1/150)
図面図版15 現況小屋母屋・桔木伏図 (S=1/150)



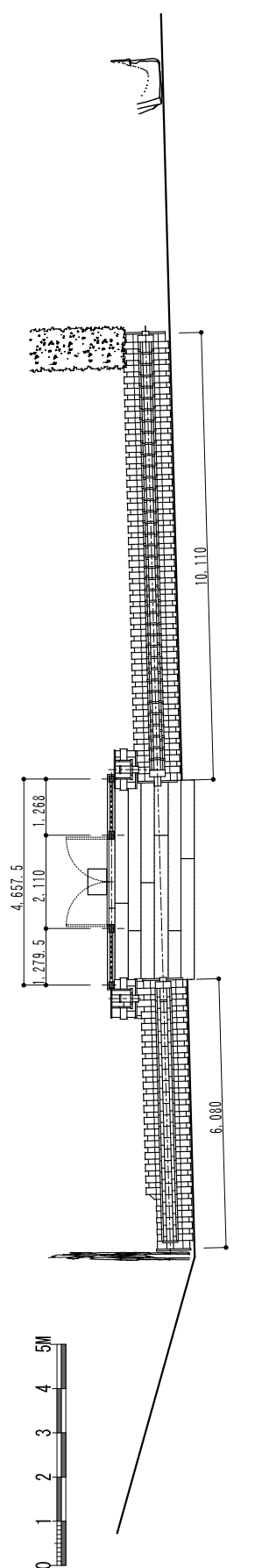
タ エ ナ ニ マ ミ ヨ シ ヲ チ ツ ク ち ニ く □ ヲ



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

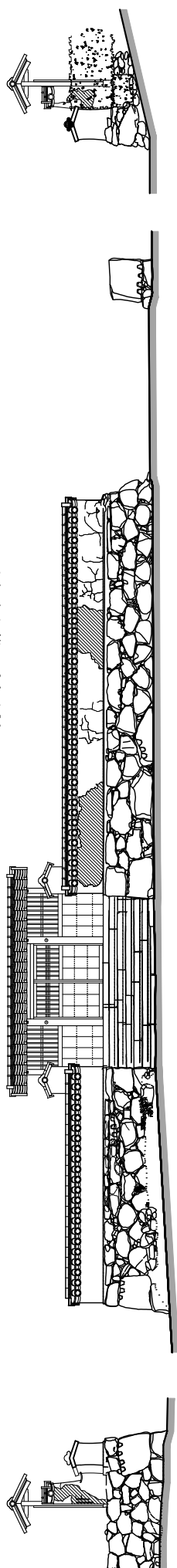


図面図版16 現況屋根伏図 (S=1/150)



町道・軒/井塙屋西浜線

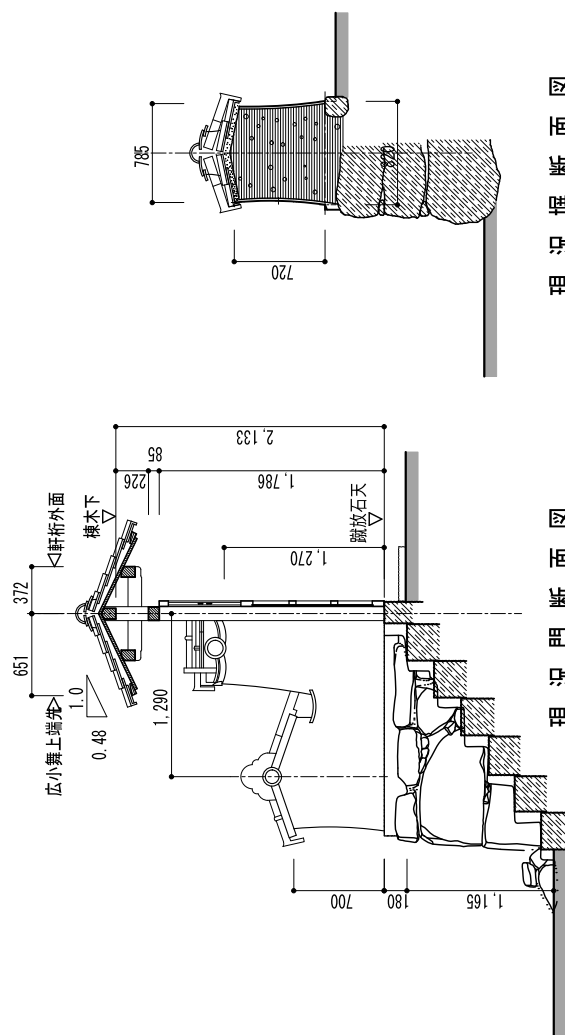
現況門・塙平面図



現況西面 門・塙立面図

現況南面 門・塙立面図

現況東面 門・塙立面図



現況門断面図

現況塙断面図

図面図版19 現況門・塙平面・立面図 (S=1/150)
図面図版20 現況門・塙断面図 (S=1/60)

X=39455

X=39450

X=39445

X=39440

X=39435

Y=54225

Y=54220

Y=54215

Y=54210

Y=54205

Y=54200

Y=54195

X=39455

X=39450

X=39445

X=39440

X=39435

図面図版21 現況石垣平面図

Y=54220

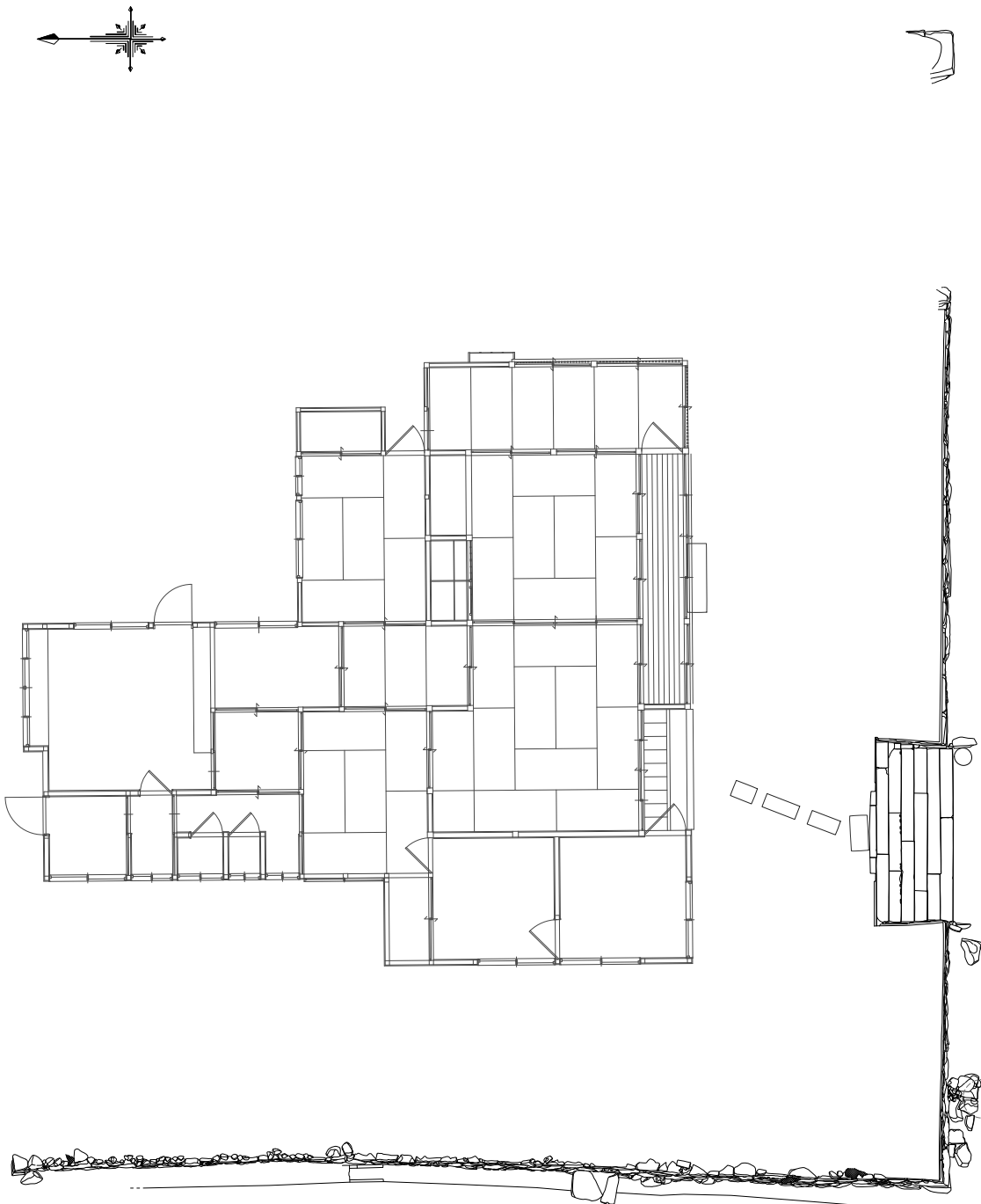
Y=54215

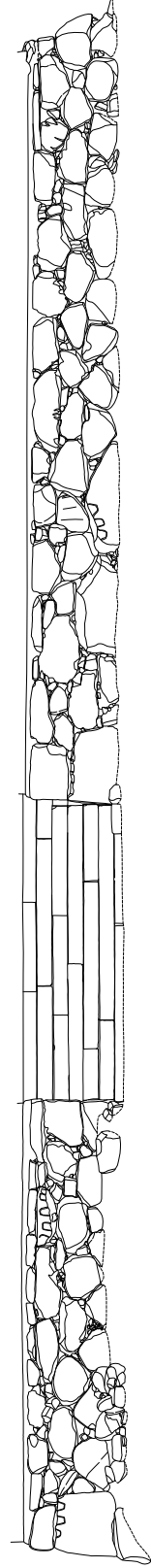
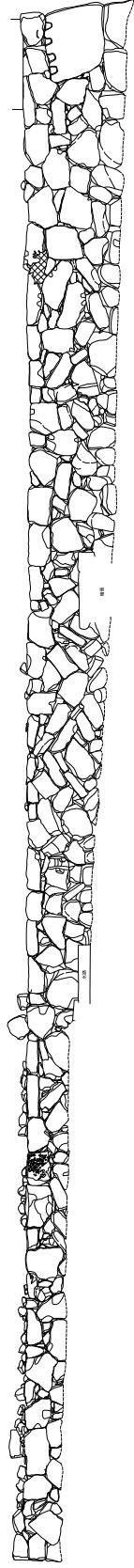
Y=54210

Y=54205

Y=54200

Y=54195





【文化財保護のお問い合わせ先】

日出町教育委員会社会教育課（文化財係）
〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2
TEL 0977-73-3222 / FAX0977-72-8680